

第8課「被造物への配慮」

神は世界を創造し維持しています。神のかたちに造られた人間は被造物の管理者、保護者の立場にあります。

日曜日「ロブスター解放運動！」

冷静に環境保護活動に励むことが大事です。人間に出来ることはごく僅かだと分かっていることが大事です。人間の目に見えない神の御手が被造物を守っているお陰で地球は保たれています。その上で我々は微力でも最善を尽くそうとすることに意義があります。「どうせ僅かしかできないから」、「どうせ神の裁きで滅びるのだから」、こんな考えで何もやらないというのは残念なことです。

月曜日「被造物への配慮に関する声明」

世界総会の公式声明の次の言葉に注目します。「人間の利己的で自己中心的な追求・・・貪欲さ」。人は神から離れて被造物の管理者の責任を忘れました。「銃・病原菌・鉄」「文明崩壊 滅亡と存続の命運を分けるもの」の著者ジャレド・ダイヤモンド氏が歴史から実例を語っています。「古代マヤ文明の人々は、増えた人口を支える燃料や建材を得るため、丘の森林を切り倒しました。その結果、土が水に浸食されて流れ、下流の農地まで埋めてしまった。残り少ない農地をめぐる人々は争いました。支配層も富や権力の拡大に熱中し、対策を示せなかった。気候の変動による干ばつが追い打ちをかけ、マヤ文明は滅びたのです」（朝日新聞2012年1月3日掲載）。

火曜日「被造物への配慮」

創世記2：15に神は人間にエデンの園を耕し守らせるよう計画したことが書かれています。環境を保護するべきなのに人間は逆の搾取と破壊をします。「人間の利己心よりほかには、自分だけのために生きているものは何もない」（p.59の10行目）。前出のジャレド氏は自然破壊、天然資源／化石燃料の枯渇、水不足、土壌浸食、化学物質汚染、地球温暖化などの問題について警鐘を鳴らしています。

水曜日「安息日と環境」

安息日は人間の日常の営みを意図的に中断する日です。利益の追求を休み、創造主なる神を礼拝するという人間の原点に戻る日です。神を基準にする安息日は人間の心も健康も環境も守ります。高度成長の時代、経済は右肩上がりの成長を遂げました。その「成長」は立ち止まって神を礼拝することとは無縁でした。今また同じ伸びを回復することはもはや望めません。成長の時代が終わりを告げた今、休むことを知らずに過ごしてきた人間はどこに向かえばいいか迷い悩み苦しみます。安息日はそんな我々への神の招きです。

木曜日「人類の支配権」

創世記1：28を読むと、神は人間に「海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ」と言いました。しかし人間の乱獲で絶滅した生き物がどれ程の数にのぼるでしょうか。神は「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ」とも言いました。この言葉には、子孫が絶えることなく続いていくように、人類が環境を保護し天然の恵みに感謝して生活するようにという神の願いが込められています。